

みんゆう 随想

夜明けの雲海を眼下に大台ヶ原山頂。パーキングを後に、目指す大峰山最高峰の八経ヶ岳(奈良県)に向かった。車幅ギリギリの連続カーブを対向車が来ないことを祈りながら、断崖谷底を見ないようにして上り詰め行者還トンネルを出ると登山口駐車場に到着した。

沢に沿って歩き、簡易な木橋を渡ると急登が始まった。古木のシャクナゲやシロヤシオのトンネルは、天城山のアマギシャクナゲやアセビのトンネルを思い出させた。奥駆道出合から稜線歩きとなり聖宝ノ宿

渡辺 裕之

福島市・渡辺エンジニアリング
取締役会長



跡で小休止。行者泣かせの高差1260mの荒島岳

急坂を登り間もなく弥山小屋に到着。山頂でお参りを9時30分に出発。盛り上が

して八経ヶ岳へ向かった。一部には女人禁制の箇所

もあり神秘的な山なので、当に百名山が？ 深田久

もあり神秘的な山なので、当に百名山が？ 深田久

白装束の修験者と一緒の山 弥先生の故郷の山だから

旅を想像していたが、偶然と不満げに登り続けたら、

なにか一人も出会わない。ブナ林を過ぎたところで体

峰へ午前5時に出発した。左眼下に白水湖を望みながら、

山に魅せられて(26)

少し下り、岩場の急登が調が悪くなった。水はガブ

始まり、夢中で登った槍、ガブ、食欲は無い。遠距離

剣、穂高などが脳裏に懐か移動による寝不足と猛暑で

しく、辛さや怖さを忘れて軽い熱中症に罹ったが、歯

容易に山頂に立てた。を食いしばって登り続け

た。山頂では360度の展望と明日の白山がよく見え

残るはあと6座。やま友の土田さんとカド

て、思ったより奥深く、風を背負い、食べる物を差し

ハラスキー場駐車場登山口格のある山であると納得。出してくれるが一口も食べ

に着いたのは8月11日。標 深田先生には心の中でお詫